

合同学習会 子どもの発達と遊具の可能性



報告書

日本技術士会登録 子どもの安全研究グループ
NPO法人 Safe Kids Japan

子どもの発達と遊具の可能性

子どもや子育てに関わる人にとって欠かせない「遊具」。公園や保育園、幼稚園に設置されている身近なものですが、遊具とは何か、遊具は子どもの発達にどのような影響を及ぼすのか、といったことを考える機会はありません。この学習会では、遊具のベネフィット（恩恵）や可能性について学ぶと共に、遊具による重大な傷害（けが）を予防するための考え方についても学びます。

日 時：2021年2月20日(土) 14:00-16:30（入室開始 13:30）

形 式：Zoomによるオンライン形式

共 催：日本技術士会登録 子どもの安全研究グループ

NPO 法人 Safe Kids Japan

消費者庁

プログラム

- 1) 合同学習会開催にあたって
瀬戸 馨（技術士、日本技術士会登録 子どもの安全研究グループ 会長）
- 2) 遊具の可能性～ベネフィットの視点から
弘永 元（RPII 国際遊び場検査士機構 - 精密点検検査士、(株) アネビー）

～ 休 憩 ～

- 3) 保育園の「楽しくて安全な遊具」とは
松野 敬子（社会安全分野学術博士、保育園園長）
- 4) 「Guide50」（子どもの傷害を予防するための基本安全規格）で考える遊具の安全
森山 哲（技術士、労働安全コンサルタント、子どもの安全研究グループ 会員）
- 5) 遊具を取り巻く最近の動き
西田 佳史（東京工業大学教授、Safe Kids Japan 理事）
- 6) おわりに
山中 龍宏（小児科医、緑園こどもクリニック院長、Safe Kids Japan 理事長）

開催日時：2021年2月20日(土) 14:00-16:50

開催形式：Zoomによるオンライン形式

申込者数：190人

当日参加者数：180人

アンケート回答者数：64人



合同学習会開催の背景

2021年2月20日、公益財団法人 日本技術士会登録「子どもの安全研究グループ」と、NPO法人 Safe Kids Japanは共催で、「子どもの発達と遊具の可能性」と題する学習会を開催しました。これは、2017年4月12日に香川県善通寺市内の保育園で発生した、遊具による園児死亡事故が発端になっています。

都市公園の遊具に関する安全指針としては、2014年6月に国土交通省が公表した「都市公園における遊具の安全確保に関する指針（改訂第2版）」があります。また、同じタイミングで一般社団法人 日本公園施設業協会（JPFA）が「遊具の安全に関する基準」を同協会内部の自主規準として定めており、公園管理者はこれらを参照しつつ、公園の安全管理に努めています。

一方、幼稚園や保育園等「教育・保育施設」に設置されている遊具には、乳幼児が使用することを前提に作られた指針や規準がないため、教育・保育施設は上記都市公園の遊具に関する指針や規準を参照することになっています。善通寺市の事故に関し、2019年1月高松地方検察庁はこの件を嫌疑不十分で不起訴としましたが、その理由として、「事故があった『うんてい』はガイドライン（「都市公園における遊具の安全確保に関する指針（改訂第2版）」が求める基準を満たしていなかったが、70ページ以上に及ぶガイドラインを読んで理解するのは困難で、子どもが隙間に首を挟んで死亡することを予見するのは難しかった」などとしています。

この判決の課題は課題としつつ、私たちは「教育・保育施設」に設置されている遊具をはじめとする「乳幼児が使用する遊具」について考える機会を持ちたいと考え、2020年春頃から議論を重ねました。最終目的は「子どもの遊具による重大な傷害を予防すること」ですが、その目的を達成するため、まずは子どもにとって「遊具」とは何か、遊具にはどのようなベネフィット（良いこと）があるのか、について考えてみることにしました。幸いにも遊具の専門家のご協力をいただくことができ、今回の学習会開催となった次第です。

合同学習会開催にあたって

瀬戸 馨(技術士)

日本技術士会登録 子どもの安全研究グループ

「遊具」に関する様々な疑問を今回の学習会で学びましょう！
講師のご紹介(敬称略)

遊具の可能性～ベネフィットの観点から

弘永 元(RPII 国際遊び場検査士機構 - 精密点検検査士、(株)アネビー)

<休憩をはさんで>

保育園の「楽しくて安全な遊具」とは

松野 敬子(社会安全分野学術博士、保育園園長)

「Guide50」(子どもの傷害を予防するための基本安全規格)で考える遊具の安全

森山 哲(技術士、労働安全コンサルタント、子どもの安全研究グループ会員)

遊具を取り巻く最近の動き～「教育・保育施設における遊具の安全基準策定」について

西田 佳史(東京工業大学教授、Safe Kids Japan 理事)

<全体の質疑応答>

おわりに

山中 龍宏(小児科医、緑園こどもクリニック院長、Safe Kids Japan 理事長)

司会進行 太田由紀枝(Safe Kids Japan 事務局長)

本日は学習会へようこそ

まずは自己紹介に代えて

公益社団法人日本技術士会登録 **子どもの安全研究グループ**とは？

技術士 = 科学技術の専門家 Professional Engineer

技術士(エンジニア)によるボランティア研究グループ

目的

「広範なエンジニアリングの知見を活用して子どもの傷害を防止」

合同学習会開催にあたって

<ここまで>

皆さまのお役に立てる学びの機会となりますように！

瀬戸 馨(技術士)

日本技術士会登録 子どもの安全研究グループ

<https://kodomonozanzen.jp/>

Facebookページ: <https://www.facebook.com/kodomonozanzen>



合同学習会開催にあたって（瀬戸 馨）

◆遊具の可能性～ベネフィットの視点から

弘永 元

- ・よい遊具 = 限界に挑戦できる遊具 ≠ 危険な遊具
- ・一般の製品の安全性の評価：リスクアセスメント ⇒ 安全優先（リスクは低いほどよい）
- ・遊具の安全性の評価：リスクベネフィットアセスメント ⇒ 安全を優先しながらベネフィットも

◆保育園の「楽しくて安全な遊具」とは

松野 敬子

- ・楽しい=限界に挑戦できる ・安全な=「危険がないこと」
- ・保育園における実例も交えながらお話しいただく予定

◆「Guide50」（子どもの傷害を予防するための基本安全規格）で考える遊具の安全

森山 哲

- ・子どもの安全研究グループの前会長 ・エンジニアであり「安全」の専門家
- ・安全、リスク、危険などの用語は技術的には非常に難しい言葉
- ・「子どもの安全（傷害予防）」についてガイド50をもとに一般にもわかりやすくお話しいただく予定

◆遊具を取り巻く最近の動き

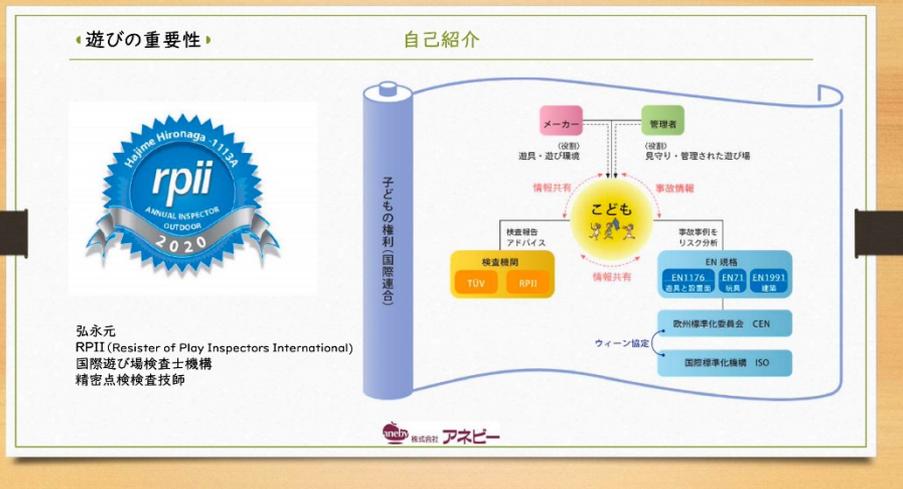
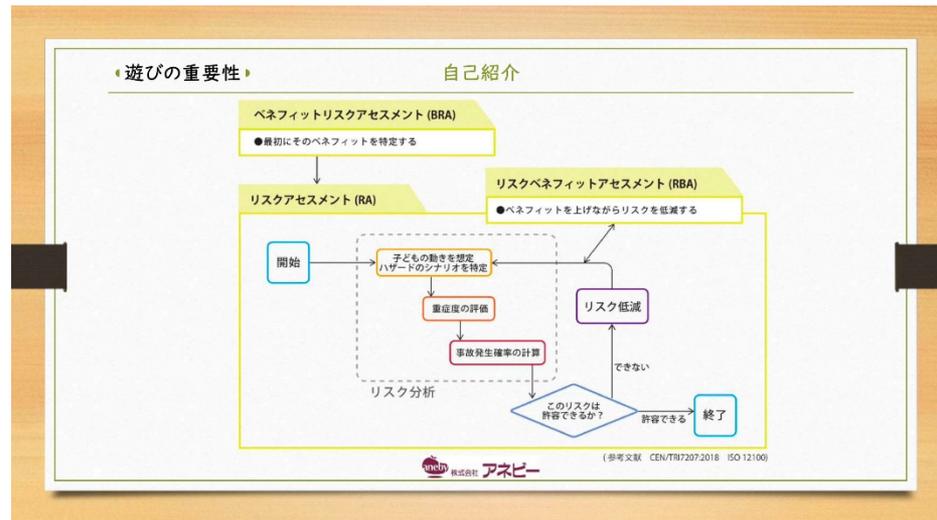
西田 佳史

- ・産業技術総合研究所（産総研）から東工大に移られて子どもの安全の研究を継続
- ・Safe Kids Japanの山中理事長と技術士会でご講演いただき、子どもの安全研究グループ設立の契機に
- ・遊具に関する最近のトピックもお話しいただく予定

◆おわりに

山中 龍宏

- ・日本における子どもの傷害予防についての第一人者、著書だけでなくマスコミ連載・取材多数
- ・Safe Kids Japan設立のほか、西田先生とともに子どもの安全研究グループのご指導でお世話に



- 「ベネフィットアセスメント」 ベネフィット=遊びの価値 (Play Value)
1. 自由と主体性の価値
 2. 難易度の価値
 3. 感覚統合の価値
 4. ミラーニューロンの価値
 5. 物語の価値
- 根拠: 脳科学、発達神経学、社会学 etc.
- 株式会社 アネビー

遊具の「ベネフィットアセスメント」とは（弘永 元）

◆必要性

近年、遊具の検査をする際、RPIIの本部ではリスクアセスメントの前にベネフィットアセスメントをする事が活発に議論されるようになった。また規格策定機関CENやISOでもベネフィットアセスメントをそれぞれの規格の要項に追加することを検討している。査定したリスクが許容できるかできないかのアセスメントの際に、そのリスクに多大なベネフィットが内在しているケースがままあり、ベネフィットを見落としのままリスクアセスメントをすると遊び場の本来の目的が見失われ、遊び場の効果やメリットも失われるケースが国際的に顕在化され始めたからだ。またベネフィットアセスメントはそもそも「遊びとはなにか」という議論や考察、見直しを促す。

◆プロセス

ベネフィットアセスメントのプロセスはEN1176では定まっておらず、今現在、各RPII検査士によってゆだねられている。よって弘永が日頃行っているベネフィットアセスメントの項目を紹介した。リスクアセスメントと同じく、ただそのベネフィットを評価・査定するだけでなく、その遊び場に求められるベネフィットに適っているか、適っていなければどういう工夫をすればベネフィットが求められるレベルにまで上がるのか、をアセスメントする。そして同時進行的にリスクもアセスメントする。ベネフィットアセスメント→リスクアセスメントの順に行くと全体のプロセスが上手くいく事が実践的に分かってきた。

◆今後

次回はベネフィットアセスメントの実例を紹介できたらと思う。

◆課題

日本では残念ながらベネフィットアセスメント以前にリスクアセスメントも遊び場ではほぼ行われていない。それをどう広く伝える事ができるかが以降の課題と感じられる。そもそも「安全とはなにか」の考え方やリスクを適正にアセスメントすることも重要だからだ。

Guide 50

子どもの傷害を予防するための 基本安全規格で考える遊具の安全

日本技術士会 登録
子どもの安全研究グループ
森山哲

技術士（電気電子部門），労働安全コンサルタント，博士（工学）
（一社）安全技術普及会，理事長
SKJ会員，監事

遊具には、指針と業界自主規準

2000年頃に設置された
落下高さ3.7m
米国製の
すべり台
の例



撮影 森山哲 2020-9-15

遊具の安全に関する法令・規準・規格は少ない。グローバルレベルに達していない。

国土交通省 都市公園における遊具の安全確保に関する指針（2002年～）

指針はハザード（高所）からの転落事故を未然に防ぐため、人的ハザードは子ども保護者等により除去し、遊具の設計などにおいて事故の抑制の配慮を求めている。

違和感あり

公園施設業協会
遊具の安全に関する規準
JPFA-SP-S:2014



設置面は芝生と芝生保護材である。
衝撃吸収表面材はない¹²

子どもは小さな大人ではない



国際規格 ISO/IEC Guide50 の核心となる言葉である。

大人と比べて

子どもはなぜ、どのように傷害を受けやすいのか、傷害を予防するにはどのようにすればよいかという疑問への解答をGuide 50は提供する。

COPOLCOに注目

ISO/ COPOLCO（消費者政策委員会）の提言

- プロダクト，サービス提供者，教育者などによる子どもの事故の増加
- それに伴う子どもの安全に関する基準のグローバルレベルでの高まり
- 障害のある子どもの安全性に関する配慮

5

子どもの安全性とGuide50

- 子どもの傷害の防止は社会全体で共有すべき責任である。
- 子どもが死亡又は重傷を負う可能性を最少にするよう，製品（製造物，プロセス，構造物，据え付け，サービス，構築された環境またはこれらの組み合わせ）を作り出すことである。
- 安全性とともに，子どもが刺激的な環境を探究し，学習することをバランスさせることも重要である。

ガイド50を紹介するには相当な時間がかかるので、安全の定義、リスクの説明、子どもの誤使用について簡単に触れる。

20

「Guide 50」で考える遊具の安全（森山 哲）

◆子どもの発達および行動

子どもは、体の小さな大人ではありません。危険源（ハザード）への暴露されることに加えて、発達段階にある子どもの固有の特性が、大人と異なった形で子どもをリスク（危害を受ける可能性と危害のひどさの組み合わせ）に晒すのです。

◆子どもの安全は、社会が重視すべき問題です

多くの国では、幼児期から思春期にかけての子どもの傷害が、死亡および障がいの主要原因になっています。

子どもは、大人の世界に生まれてきます。リスクを経験したり認識することがないまま、生来の探究心を抱いて生まれてくるのです。子どもは物品（製品）を使用し、周囲の環境と関わり合いをもちます。その結果、子どもが傷害を負う潜在的な可能性は大きいのです。大人が考える誤使用という概念は当てはまりません。大人がいつも見守ることはできません。もっともっと傷害予防の戦略が必要で、大人はやるべきことがたくさんあります。

◆発表の内容

遊具の安全には、国際的な取組があります。ヨーロッパは安全基準を統一してヨーロッパ各国で遊具を、製品を流通させようと30年以上取り組んでいます。遊具の安全の規格化が進みEN規格群となり、玩具指令、機械指令、低電圧指令などとして法律的な強制力を持っています。

Guide50は、1987年にISOとIECから初版が発行され、2014年の第3版で大幅に改訂されました。2015年にJISZ8050安全側面－規格及びその他の仕様書における子どもの安全の指針として発行されました。Guide 50は、子どもが触れる製品、子どもに提供されるサービス、子どもがおかれる環境などについてグローバルな標準である考え方、傷害予防の戦略を示したものです。

日本は、国際規格（ISO, IEC, UTCなど）を国内の規格に取り入れることを国際条約として約束しています。即ちGuide 50で示される事柄（JIS Z 8050に訳出）は、子どもの安全の最上位の規格として守って行くことを国際的に約束したのです。国際規格は、安全には正しさがあり、事故が起きる前にきちんと証明することの必要性を述べています。その証明する方法がリスクアセスメントとして体系付けられています。

2021年2月20日
日本技術士会子どもの安全研究グループ・Safe Kids Japan 合同学習会

子どもの発達と遊具の可能性

保育園の「楽しくて安全な遊具とは」

Risk Management for Kids
子どもの傷害予防リーダー
社会安全分野博士
社会福祉法人桜桃福祉会 松野敬子

保育所の園庭のより良いあり方…ということへひとつの解として
リスクベネフィットアセスメントを活用できるか？

子どもは失敗しやすいため大人よりもケガのリスクは高い
さらに、**保育所は年齢差が大きく、より幼い子がいる**

しかし、生来の好奇心や探求心という子どもの特質を安全のために犠牲にしては、成長はできない。

無傷で親に返すことは大切だが、それを目的とするなら託児でしかなく、
保育とは、日々の活動により発達を促し、成長を目的とするもの。

↓

様々な遊びの要素
登る、滑る、ぶら下がる…

リスクの許容レベル
は擦り傷、打撲程度

子ども自身で発展させられる遊び方

保育士へのヒアリングより

「楽しくて安全な園庭」とするために

大前提として、
豊かな遊びの環境が保障されていることが必要だが、その上に、

- ①園庭の中のリスクレベルを正確に認識し、ハザードの特定 **リスクアセスメント**
- ②子どもの発達段階や能力と勘案してリスク許容レベルの決定し、
スタッフ間の共通認識とする **リスク評価と方針の決定**
- ③有効なリスク対策（回避策・見守りなど）の実施 **リスクトリートメント**
- ④ステークホルダー（保護者）とリスクコミュニケーションを図る **リスクコミュニケーション**

つまりは、
保育士が、そういった高いリスクマネジメント能力を発揮させることにより、子どもたちに園庭遊びの豊かさはもたらされる。

リスクマネジメントの観点から考えた 園庭設計に際しての基本的視点

遊び

高い所へ登る、高い所から滑る、ぶら下がる、飛び降りる、揺らし、回転して眩暈を起こす、など
子どもの探索行動を刺激し、しばしば危険性の内在する行為により成り立つ場合が多い

一概に安全であれば良いというわけにはいかない。
リスクも善でありむしろ必要とされる

リスクをどのように理解し、どこまで許容し、それをマネジメントしていくかという議論が必要。この視点が充分ではないため、実効性のある対策がとられない。

↓

しかし、**事故の責任を強く求められる社会では、リスクをとりづらい。**

リスクと便益のバランスを考慮したリスクマネジメントが必要

2008年「リスクベネフィットアセスメント」という手法が英国で提唱された。

保育園の「楽しくて安全な遊具とは」(松野 敬子)

◆背景～安全第一でいいのか？という疑問

保育所や幼稚園とは、「日々の活動により発達を促し、成長を目的とする場である」と考える時、園庭の役割は「安全第一」で良いのだろうかと考え、安全性とチャレンジ性のバランスをどうとっていくかに、悩む保育者は多い。

英国発祥の「リスク・ベネフィットアセスメント」という手法は、リスクとリスクを敢えて取ることにより得られるベネフィット（便益）を並列に記載することにより、リスクを管理しつつ、子どもの成長に資する「遊びの価値」を見える化し、チャレンジ性のある遊具を導入することを可能にすると考えられている。

◆発表の内容～リスク・ベネフィットアセスメントという手法を用いた園庭とは

今回は、「リスク・ベネフィットアセスメント」の手法を用いて設計した園庭で起きた事故の実態を示し、それに対して保育士はどのように考えたかをヒアリングし、発表した。

◆発表のまとめ～軽微な事故はあるが、園児の成長に資する価値がある

実際の事故件数と態様記録は、事故は発生しているが、いずれも軽微であり、むしろ、遊具に起因しない転倒などが多く発生していると分析された。

園児の遊ぶ姿を見守ってきた保育士たちの見解は、危険を感じる場面もあるが、同時に、チャレンジ性の高い遊具で繰り返し遊ぶという「経験」が子どもを育て、発達を促していることも実感できる。

遊びの価値としてのリスクを温存した園庭は、見守り役としての重要な役割を担う保育士の存在があり、適切なリスクマネジメントを行うことで、子どもの発達に資する保育の場となることが示唆された。

最近のトピック

- 2020/12/25 水上設置遊具の安全に関するガイドライン
 - 2016年「商業施設内の遊戯施設の安全に関するガイドライン」に対して、水上設置遊具に関する留意点を拡張するガイドライン
- 2020/12/21 子どもの安全に配慮したチェストに関するJIS(ガイド50(JIS Z 8150)やJIS Z 8150に基づくC規格)
- 2021/3(予定)日本スポーツ振興センターの固定遊具の事故および対策に関する報告書

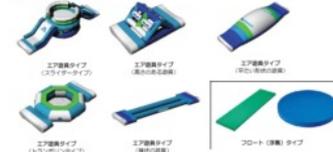


2

水上設置遊具の安全に関するガイドライン 2020/12

「エア遊具タイプ」及び「フロート(浮島タイプ)」の2種類

(※1) 遊具の主な形状例



【遊具に必要な物品の例】

運営、安全管理	・運営、安全管理マニュアル、チェックリスト(遊具点検・遊具の点検マニュアル)
記録簿	・記録簿(安全管理日誌、事故・トラブル記録等)
監視設備等	・監視台(遊具の規模等に応じて複数設置) ・双筒鏡(遊具の規模等に応じて) ・水中監視カメラ、水中ドローン(利用可能な環境条件の場合) ・カメラ等
通信機器	・スマートフォン等(スタッフ同士の間で利用) ・拡声器(利用者への注意喚起用) ・ラジオ等緊急連絡を確保できる機器
救命器具	・ライフジャケット(性能認定済みのもの)* ・救命浮手や輪等(性能認定済みのもの) ・救命用ボート(厚みでの距離がある場合等)
救急器具	・AED(自動体外式除細動器)、人工蘇生器 ・担架 ・応急手当用品、応急手当用品 ・靴等



6

2020/12/21 子どもの安全に配慮したチェスト(JIS S1211)

□ チェスト(収納家具)によじ登り死亡に至る事故が多発。当時、一部の商品はリコールになった。



50cm以上かつ40kg以上のチェストが対象。引き出しを2/3引き出し、先端に18kgのおもりを加える試験方法



図1 力を加えない状態での試験方法

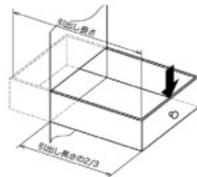


図2 力を加えた状態での試験方法

10

典型的な事故状況とその対策法

3月に日本スポーツ振興センターから公開予定



これは2012年版。この2021年版近日公開!



遊具を取り巻く最近の動き（西田 佳史）

遊具に関連した最近のトピックとして、以下の3点を紹介した。

1) 2020/12/25に経済産業省から発表された「水上設置遊具の安全に関するガイドライン」は、2016年「商業施設内の遊戯施設の安全に関するガイドライン」に対して、水上設置遊具に関する留意点を拡張するガイドラインである。としま園でのプール事故を受けて、新たに作成された。

2) 2020/12に制定された「子どもの安全に配慮したチェストに関するJIS」は、チェスト（収納家具）に子どもがよじ登ることで生じる家具の転倒事故を予防するための新たなJISである。この例に代表されるように、子どもは、身の回りの環境、製品を遊具化する中で事故を起こしている。今後、子どもがどのように遊具化させているのかを研究が不可欠であることを指摘した。

3) 2021年に発表予定の日本スポーツ振興センターの「固定遊具事故防止マニュアル（仮）」の予告を行った。近年のテキストマイニング技術により、学校管理下で生じた事故データから典型的な状況を分析することが可能になってきている。そのような最新の分析に基づく新たなマニュアルを日本スポーツ振興センターが作成中であることを紹介した。

日本スポーツ振興センター災害共済給付 5000円以上の医療費（負傷・疾病）の発生率（%）



- 災害共済給付の加入者数：毎年、325万人～329万人
- 加入率：80～85%

年度	2015	2016	2017	2018	2019
幼稚園	1.72	1.70	1.78	1.79	1.79
こども園	2.15	2.09	2.14	2.29	2.35
保育所等	2.16	2.17	2.22	2.30	2.30



2

おわりに

～継続的な学びと具体的な取り組みに向けて～



2021年3月20日

山中 龍宏
小児科医、NPO法人 Safe Kids Japan 理事長
緑園こどもクリニック院長



1

今回は「遊具」をテーマとした学習会の第1回目



これからも皆さんとともに



3

おわりに（山中 龍宏）

子どもの発育、発達にとって遊具の存在は不可欠である。遊具の安全性については、以前から世界中で検討されており、いくつもガイドラインがある。安全の概念と、実際の遊具の安全のあいだには乖離があり、現実には日常的に遊具に関連した事故が起り続けている。

日本スポーツ振興センターの災害共済給付のデータを見ると、5000円以上の医療費を要する災害（負傷・疾病）の発生頻度は毎年、まったく同じで変化が見られない。災害の9割は疾病ではなくケガであり、そのうちのかなりの部分に遊具が関連している。

そこで今回、日本技術士会子どもの安全研究グループとNPO法人Safe Kids Japanで遊具の安全に関する学習会を開催した。新型コロナウイルス感染症の蔓延により、今回はオンラインの学習会となった。会場で質問したり、お互いに話し合う機会とはならなかったが、遠隔の地にいらっしゃる方でも参加できるという利点があった。100名以上の方が参加された。

初回ということもあり、今回は総論的な話であったが、今後は、もう少し時間を短くし、学習会の内容を絞って、継続的な学びの会としたいと考えている。今後の予定は、スライドに示した。

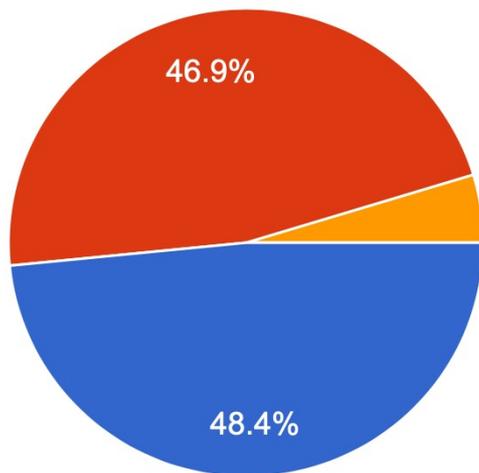
今後も、この学習会への参加をよろしくお願いいたします。

事後アンケート集計結果

学習会の内容についてお尋ねします。「遊具のリスクベネフィットアセスメント」について十分に学ぶことはできましたか？

- 十分に学ぶことができた
- 十分とは言えないが、大体のところはわかった
- よくわからなかった

64 件の回答

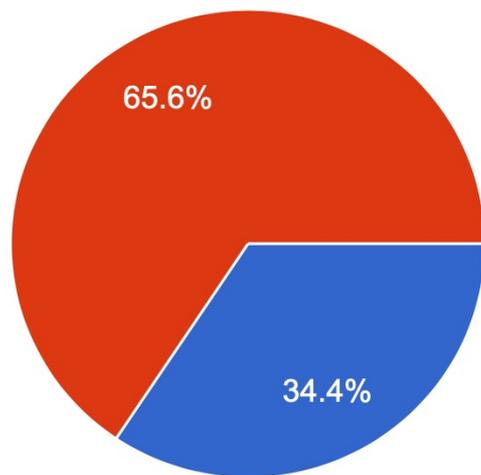


- 十分に学ぶことができた
- 十分とは言えないが、大体のところは...
- よくわからなかった

「子どもの発達段階に応じた遊具やその事例」について十分に学ぶことはできましたか？

- 十分に学ぶことができた
- 十分とは言えないが、大体のところはわかった
- よくわからなかった

64 件の回答

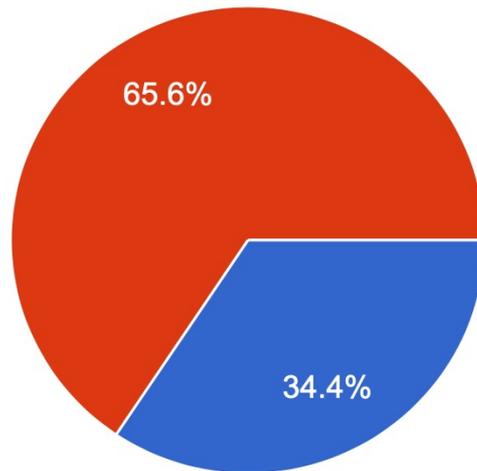


- 十分に学ぶことができた
- 十分とは言えないが、大体のところは...
- よくわからなかった

「子どもの発達に有効な遊具とその活用方法」について十分に学ぶことはできましたか？

- 十分に学ぶことができた
- 十分とは言えないが、大体のところはわかった
- よくわからなかった

64 件の回答

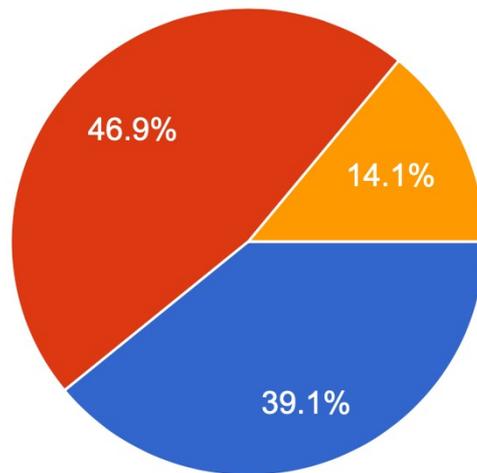


- 十分に学ぶことができた
- 十分とは言えないが、大体のところは...
- よくわからなかった

「日本の遊具と欧米の遊具の違い」について十分に学ぶことはできましたか？

- 十分に学ぶことができた
- 十分とは言えないが、大体のところはわかった
- よくわからなかった

64 件の回答

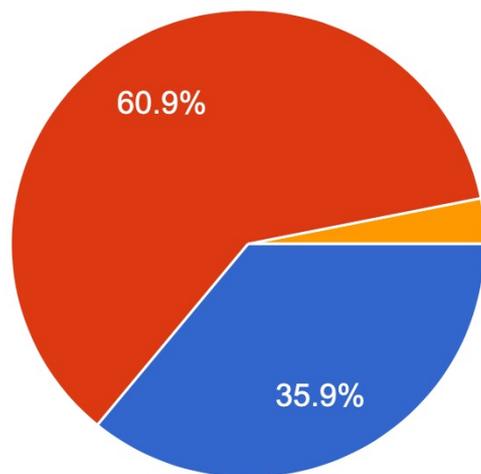


- 十分に学ぶことができた
- 十分とは言えないが、大体のところは...
- よくわからなかった

「遊具でどんな事故が起きているのか」について十分に学ぶことはできましたか？

- 十分に学ぶことができた
- 十分とは言えないが、大体のところはわかった
- よくわからなかった

64 件の回答

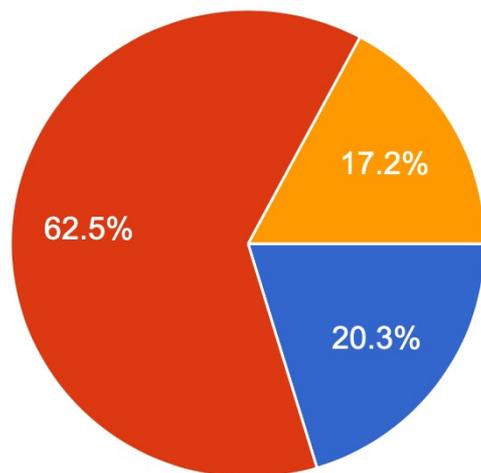


- 十分に学ぶことができた
- 十分とは言えないが、大体のところは...
- よくわからなかった

「遊具でけがをしないようにするために保護者・保育者がすべきこと」について十分に学ぶことはできましたか？

- 十分に学ぶことができた
- 十分とは言えないが、大体のところはわかった
- よくわからなかった

64 件の回答

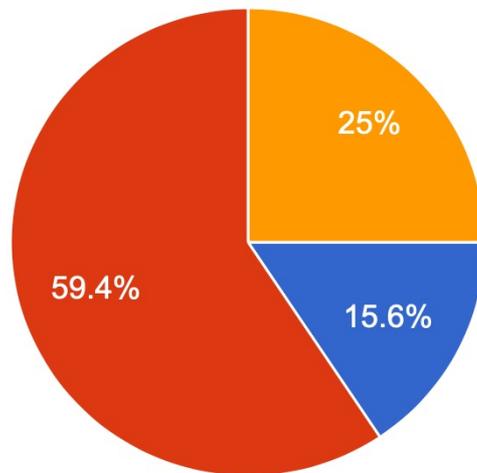


- 十分に学ぶことができた
- 十分とは言えないが、大体のところは...
- よくわからなかった

「遊具でけがをしたり、危険な遊具を見つけたときにどのように対応すればよいか」について十分に学ぶことはできましたか？

- 十分に学ぶことができた
- 十分とは言えないが、大体のところはわかった
- よくわからなかった

64 件の回答

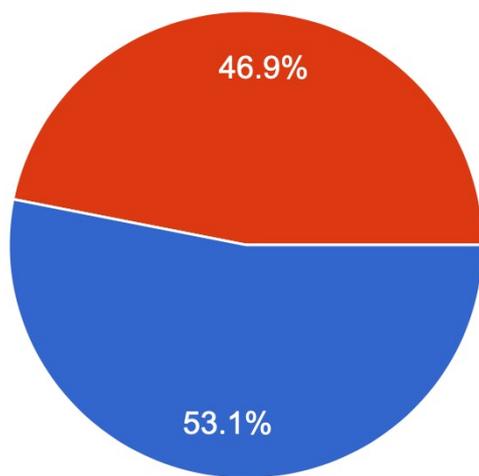


- 十分に学ぶことができた
- 十分とは言えないが、大体のところは...
- よくわからなかった

全体を通じて、この学習会の満足度はどれくらいですか？

- 十分満足
- 十分とは言えないが、大体満足
- 満足とは言えない

64 件の回答

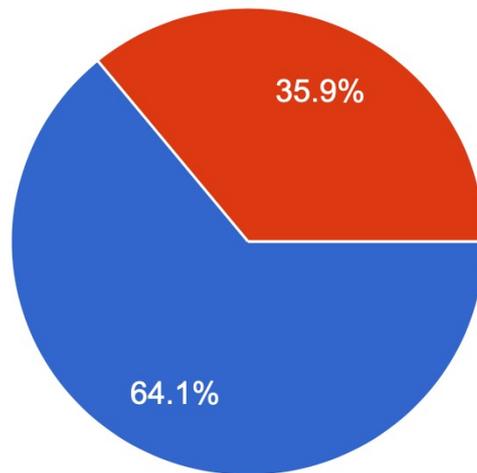


- 十分満足
- 十分とは言えないが、大体満足
- 満足とは言えない

ここからは運営方法などについてお尋ねします。受付方法や通知方法は適切でしたか？

- 適切だった
- まあまあ適切だった
- 適切とは言えなかった

64 件の回答

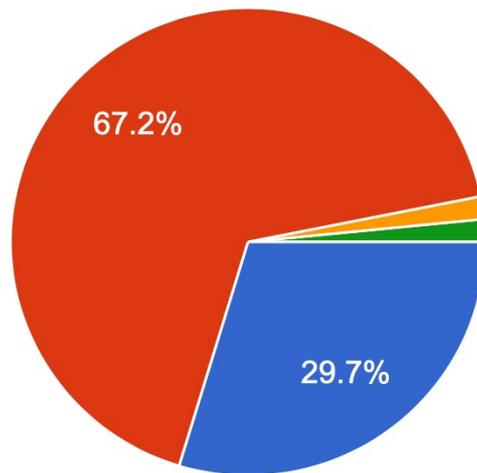


- 適切だった
- まあまあ適切だった
- 適切とは言えなかった

Zoomミーティングでの進行はスムーズでしたか

- スムーズだった
- まあまあスムーズだった
- スムーズとは言えなかった
- その他...

64 件の回答



- スムーズだった
- まあまあスムーズだった
- スムーズとは言えなかった
- スムーズでしたが、タイムマネジメン...

※「その他」の意見
スムーズでしたが、タイムマネジメントはやはり難しいですね

今後も「遊具」をテーマとした学習会を開催する予定です。今後取り上げてほしい内容があれば記入してください。

- ・発達と遊具
- ・リスクマネジメントの話しが聞きたいです
- ・狭小な園庭で豊かな遊びができる遊具
- ・食べ物
- ・教員や保護者としての注意すべきポイント
- ・公園での遊具についても知りたい
- ・公園の遊具について
- ・おうちで気をつける遊具
- ・コロナ禍における子どもの発達と遊具の関係
- ・遊具の安全基準についてはとてもよくわかりました。次回は「遊具をどのように安全に保育の現場で使用したら良いか」についてのテーマでお願いできたら幸いです。
- ・建築物や家具の遊具化や事故について。

- ・具体例（事例）を多く取り上げて、参加者同士の意見交換もできるもの
- ・最初のご講演で、ベネフィットとリスクはトレードオフでは無いとのことでしたが、どうしてそう言えるのか、もう少し詳しくお聞きしたかったです。子どもの家具の遊具化の行動解析の結果がとても気になります。
- ・子どもの身体発達、いろいろな学びとの関連
- ・最後の方で、今後の計画が出ていたと思いますがその順番でお願いします
- ・保護者や保育者などが公園の遊具を利用する際、簡単に安全かどうか見分けるポイントを教えて頂きたいと思いました。許容できない事故が起こる可能性がある遊具をたくさん写真とともに列挙し、解説頂けますといいなと思いました。
- ・遊具の範囲が広いので、対象年齢や遊び方等でどの遊具なのかを提示したほうが理解や議論が明確になると思います。
- ・知育遊具などの安心・安全
- ・山中先生がお話していた「在宅で遊具化する家具の研究」の結果が楽しみです。
- ・遊具の利用や保全での問題点など事例も勉強出来ましたら、ありがたいです。
- ・物理的環境を安全にすることでどの程度事故が減るのか、物理的環境のどこをどのように配慮すれば良いのか、具体例を知りたいです。
- ・保育施設での室内で使う遊具の考え方について知りたいです
- ・不特定多数が利用する公園に複合遊具を設置する場合の留意点

- ・冒険遊び場をずっとやってきている人間なので、最後に「手作り遊具」というワードが出てきて「へえ」と思いました。手作り遊具のベネフィットは子どもの育ちに関することばかりではないので、どう理解されているのか興味のあるところです。
- ・今日の話では、「ベネフィットアセスメント」という話が最も興味を引いたところです。冒険遊び場では、遊びこんでいる子ほどけがをしません。リスク管理を本人ができる、これ以上のリスク回避はないと思って活動してきていますので、産業としての遊具にもその発想がもっと入る可能性を考えると、ちょっとワクワクします。
- ・今回の学習会で子ども自身の主体性や意欲を大切に見守って行くことが大切なことは再認識しました。しかし、実際には複数の園児を安全に見守らなければなりません。職員数にも限りがあり、どこまで手を出してよくて、どこまで見守って行けばよいのか戸惑うこともあります。なにか見守りの際のポイントがありましたら教えて下さい。
- ・公園の遊具全体的に知りたいです。
- ・遊具の対象年齢表記について、意味やどのように定められているのか。
- ・撤去されていく遊具が増えました、撤去されていく遊具の種類、又今後の遊具はどのようなものが設置されていくのか。
- ・安全性に関する訴訟の判例や製造物責任（PL）などの絡み
- ・狭小な園庭で豊かな遊びができる遊具
- ・公園の遊具全体的に知りたいです。
- ・遊具の対象年齢表記について、意味やどのように定められているのか。
- ・撤去されていく遊具が増えました、撤去されていく遊具の種類、又今後の遊具はどのようなものが設置されていくのか。
- ・遊具(建造物と同じ)にも素材、立地条件、自然条件により耐久性(塩害)など異なると思う。その場合の対処やアドバイスを何処に求めることができるのか。

以上

その他、全体についてのご意見や感想があれば記入してください。

- ・ありがとうございました。勉強になりました。
- ・このような学習会は、本当にありがたいです。また企画してください
- ・内容は大変興味深く拝聴しておりました。
- ・資料はメールで前もって共有いただけるとありがたいです。
- ・遊具にたいして、どう遊ぶのがいいのか、子どものやりたい気持ちを尊重したいが遊具の使用のルールをどこまで守るかあるいは守らないかなどが少しわかりました。
- ・とても勉強になりました。ありがとうございました。
- ・非常に楽しかったです。有難う御座いました。
- ・できれば先生方皆様の資料をいただくと、ありがたいなと思いました。ありがとうございました。
- ・小児科医で保育・教育系大学の教員をしています。来年度から「昨夜の運動遊びと安全」という大学4年生向けの授業が開始されることになり、その担当者として今日の授業の内容を活用させていただきたいと思います。どうもありがとうございました。
- ・色々なテーマについて、もう少し掘り下げた勉強ができればいいかなと思います
- ・安全の定義がわかりました。保護者やメディアでも広く知ってもらいたいです。こどもの発達を考えるとスピード感を持って、広めていく必要があると感じました。
- ・講師の先生方にとっては大変ですが、もし可能なら前日以前に資料をメール共有しておく、予習ができて質問も出やすかったかもしれせん。

- ・とても有意義でしたが、情報量が多すぎて、理解が追いつかない状況でした。振り返ってみたいと思います。
- ・遊具の安全性はもちろんですが、子どもの体が発達する事が一番安全に繋がると思います。五感を使うこと、乳児からの体の発達が一番必要だと思います。
- ・子どもは、自分で分かってやります。公園などでの使用はハイテンションになるときに気をつける事が必要だと思います。
- ・子どもの事を見て理解していれば、大きな事故は起こらないと思います。異年齢も遊ぶ中で子どもが気を付けていきます。子どもの力を信じる事が大切だと思います。子ども観察が基礎です。
- ・日本で、なかなかリスクアセスメントの実践が出来ていないことがわかった。しかし、これから、どんどん、事故例や成功例を集め、基準を作り、安心、安全な遊具が増えてくれば良い。昔は、自然が遊具だった。自然の方がもっと危なかった。保護者と園がよく話し合う場をもってほしい。
- ・遊具を設計されている方の専門的なご開設、保育現場、そして規格のご紹介を頂き、大変勉強になりました。ありがとうございました。
- ・ガイド50について。セーフキッズジャパンさんで技術士さんが説明される内容を何度か聞いていますが、子どもの発達や探索活動に対するリスクのとらえ方などの説明が足りず、A規格、B規格、C規格といった規格のフレームワークの説明が多く、保育士さんら現場の方たちにとっては理解が難しいと思います。ガイド50がJIS化された社会的な意義等も含めて、技術的な部分ではない側面も取り上げてほしいと思います。
- ・本研究会のメンバーになるには？ 因みに、私は技術士です。
- ・園庭遊具に関する知見や実践について、検査技師等の技術士や保育園、研究者の視点等、多様な立場の方からお話を伺う機会はなかなかないのではないかと思いますので、大変意義がある時間でした。今後も、関心のある内容の学習会には参加していきたいと思いません。ありがとうございました。
- ・将来、あそび場として提供することを、考えていました。今回のリスクマネジメントで遊具を設置する場合の危険性や、約束事をどうしていくことが望ましいのか参考がありますでしょうか。
- ・人の見守りに頼るのではなく、物理的環境を変えることで、子どもの安全を守ることに関心があります。とても有意義な勉強会でした。

・リスクだけでなく、ベネフィットに着目していくというのは、全く知らない考え方でしたので、とても勉強になりました。また森山先生の西欧と日本の規格の作り方の違いも参考になりました。安全に関する基本的な考え方をじっくり勉強する必要があると思いました。またzoomで勉強会があれば、参加したいと思っております。よろしくお願い致します。

・子どもたちを遊ばせる場合に、見守る人がいる場合とそうでない場合の遊具の設置について大きな違いがあるように感じました。

・とても充実した内容でした。ありがとうございました。今後も期待しております。

・研修ありがとうございました。改めて確認できた内容もあり、また知らなかった事も勉強になりました。

・ありがとうございました。もっと深彫りされていくテーマだと思っているので、今後もぜひ時間が合う限り拝見したいと思いました。

・研修ありがとうございました。改めて確認できた内容もあり、また知らなかった事も勉強になりました。

・さまざまな専門家の先生方からのお話がきけて大変勉強になりました。土曜日の午後だとあまり長い時間が取れないので、もし次回開催の際には平日の夜だと嬉しいです。

・ガイド50、リスクベネフィットアセスメント、ミラーニューロンの価値…など初めて聞く言葉も多く、新しい知識としてたいへん勉強になりました。日本スポーツ振興センターのデータ、年間100万件もの傷害データは今後事故予防に活かしていけるのではないかと感じました。

・今まできかなかった話をきくことができました。ありがとうございました。また次回も参加させていただきたいと思います。

・配布資料は事前（数日前）にダウンロードできると予習，準備ができ当日の理解度が高まると思います。

・複合遊具について、よく理解できていなく、心配（怪我し易いのでは？）の方が大きかったのですが、講義を聞いて、バランス感覚がつくなどの、複合遊具が持つ効果がよく分かり大変参考になりました。

・今まできかなかった話をきくことができました。ありがとうございました。また次回も参加させていただきたいと思います。

以上